

フランス人の見た日本の庭：縁側から庭へ

「第125回 フランス・アラカルト」開催 (5/9)

ニーム出身のエマニュエル・マレスさんは、デニム（語源は De Nîmes : かつてはニームの特産物）ならぬ羽織・袴に侍のような束髪で会場に現れ、それがとても良く似合っていて、私たちはまずそのことに驚きましたが、それ以上の驚きは、マレスさんの講演そのものでした。アクセントや語彙に不自然なところが全く感じられない完璧で流暢な日本語での講演だったからです。日本文化と合気道にあこがれ京都に来たマレスさんは、日本建築を学び研究に取り組む中、日本庭園に惹かれ京都の作庭家・古川三盛氏の弟子となり、学問の傍ら5年近くも職人として仕事を続けられました。博士論文のテーマに日本建築における「縁側」を選んだのも、日本家屋の中と外の庭とを結ぶ「縁側」の特別な役割に目を向けたからです。庭職人として弟子入りしていた期間の体



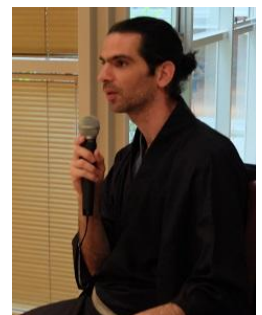
マレスさんが奈良滞在中に度々訪れた
奈良市東南部の山間にある正暦寺の庭園



験が論文の内容を深め、同時に語学力にも磨きを掛けることになったのでしよう。日本庭園研究の第一人者森蘊（もりおさむ）の残した資料の整理や、彼の手がけた庭を研究するために、奈良文化財研究所の研究員として、2012～13年の一年間奈良に滞在していたそうです。今は円通寺（写真左、京都左京区にある臨済宗の寺）の前を毎朝通って仕事場に行っておられるとか。比叡山の借景を生かした素晴らしい日本庭園はお勧めですとのことでした。（長谷川明子）

前半のお話を聞きながら、日本建築史・日本庭園史が専門のマレスさんを、夏目漱石の作品に結びつけたものは何だったのだろうか、不思議に思っていた。すると、上智大学留学中にホームステイしたのが、偶然にも岩波書店『漱石全集』元編集長の秋山豊さんの御宅で、その秋山さんが「縁側を研究しているのなら漱石の『門』を読んでごらん。最初と最後に少ししか出てこないが、縁側の描写がある」とのヒントをくださったというエピソードを、明してくれた。

小説『門』は、友人の妻であった御米と結婚した宗助の夫婦の物語。宗助が借りている家には縁側が二つあり、一つは崖に近くて日当たりが悪く、もう一つは外の通りの側にある南向きである。日本語とフランス語訳による朗読では二つの象徴的な場面が紹介された。宗助はどちらの縁側にも出て寛いでいるが、御米が出るのは崖の近くにある縁側だけで、夏の夜、それも一人ではなく宗助と二人である。マレスさんによれば、縁側は、安らぎのある「内」と不安の多い「外」の中間的・開放的な空間で、宗助にとっては「内」であり「安らぎ」である。その一方で、御米にとっては「外」で「恐怖」の空間であるため、あまり縁側に出なかったという。縁側に着目し、登場人物の心理と縁側との距離感まで分析する緻密な読解に、新たな読書の楽しみ方を教えてもらったような気がした。参加者の皆さん(21名うち会員19名)も熱心にマレスさんのお話に聞き入り、さまざまな質問をした。ひとつひとつの質問に対して、その場で考えながら言葉を選びながらのマレスさんの受け応えがまた見事で、素晴らしい日仏文化交流の機会となった。（藺田章恵）



「結局、日本庭園とはなんですか？」このような簡単な質問に戸惑ってしまいました。素朴な疑問でありながら、とても難しい問題です。一口に日本庭園と言っても、どの、どの時代の、どのような様式の庭をさしているかは定かでなく、見方だけでも「観賞式」「回遊式」「船遊式」などがあります。「池泉式」「枯山水」「茶庭」などの様式もあります。時代的にはいつから日本庭園といえるのか？ 飛鳥時代？ 奈良時代？ 平安時代？ 最近、外国でもいわゆる日本庭園がよく作られているのですが、何をもって日本の庭と言えるのか？ 考えれば考えるほど難しくなります。今回は、皆さんとゆっくりお話することはできませんでしたが、とても楽しくかつ刺激的な時間でした。（エマニュエル・マレス）

フランス文学の庭から <39>

三野博司 (会長)

名句の花束

Je ne mens jamais ; je ne mens qu'à ton frère...
 けっして嘘はつかないわ、つくのはあなたのお兄さんにだけ...
 (メーテルランク『ペレアスとメリザンド』1902年)



海と森に近い架空のアルモンド国を舞台とし、時代設定も明示されていないこの戯曲は、ヨーロッパのさまざまな伝説や伝承を取り込んでいるように見えます。トリスタンとイゾルデ、メリュジーン、そしてオディーン伝説。すでに第1幕の登場からメリザンドが水の精のおもむきをたたえていることは前回述べました。泉のそばでメリザンドを見つけたゴローは、彼女を城へと連れ帰ります。そこには彼の異母兄弟であるペレアスがいて、メリザンドの不思議な魅力に惹かれていくのです。

第三幕で、メリザンドが高い塔の窓辺にたたずんで、長い髪を梳くすがたはまるで人魚のようです。やがてペレアスが登場すると、メリザンドが窓から身を乗り出し、その髪が塔の上から落ちてくるのですが、これは事故ではなく、メリザンドの作為であるようにも思われます。ペレアスは、その髪にくちづけし、両腕で抱き締め、自分の頸に巻きつけてしまうのです。この幕の冒頭は、ドビュッシーのオペラにおいてもっとも美しい場面のひとつです。若い時代のワーグナーの影響から脱した彼は、この作品でことばと音楽の精妙なむすびつきをめざし、長いメロディーも、アリアも、アンサンブルも、レシタティーヴォも排除しました。そんななかで、唯一の歌らしい歌といえるのが、メリザンドによる中世風の教会旋法による歌です。アカペラで歌われるだけに、いっそう純な響きが印象に残ります。クリュイタンス盤のCDに収められたロスアンヘレスの歌は、蠱惑的な妖しさはないものの、つややかで暖かく透明感があります。

第四幕第四場では、庭園の泉のほとりで、メリザンドとペレアスが二人だけで最後の夜を過ごすのですが、ここで彼女はぬけぬけとこんなせりふを吐きます。

« Je ne mens jamais ; je ne mens qu'à ton frère... »

けっして嘘はつかないわ、つくのはあなたのお兄さんにだけ...

哀れなのはゴローですね。まるで双生児の兄妹であるかのようなペレアスとメリザンドはおとぎ話の世界に生きています。そしてゴローだけが人間的な嫉妬に苦しむのです。メリザンドはフランス文学に登場するファム・ファタール *femme fatale* の仲間に入れられることがあります。その魅力で男を誘惑し、破滅へと導く女たちですが、彼女にはマノン・レスコーやカルメンのような奔放さはまったくありません（といっても、「名句の花束」では、これまでにマノンもカルメン登場していません。いずれまたの機会に）。むしろつねに受動的で、何もしない、その何もしないことで男を破滅させる。こっちのほうが恐ろしいかもしれません。無垢な女性だと思って近づいたら、実は.....というわけですから。



人魚のようなメリザンドを見せる
 パスティエ・オペラ最新演出の舞台

このあと、幕開けから暗い予兆に貫かれていたドラマは、一気に悲劇へとなだれを打っていきます。第4幕「庭園の泉」の場面で、嫉妬に苦しむゴローがついにペレアスを剣で倒すことになり、第5幕「城の一室」では、ゴローが瀕死のメリザンドに罪を犯したのかと執拗に問いかけるのですが、彼女はあいまいな答えを返すばかりで落命します。

『ペレアスとメリザンド』は音楽家の靈感を奮い立たせるのでしょうか。フォーレもこの劇の付随音楽を作曲しています。その第5曲「シシリエンヌ」は単独でも演奏されることが多く、フルートとハーブが奏でる付点リズムのついた哀愁ある旋律は一度聴いたら忘れない強い印象を残します。もといえはチェロとピアノのための曲で、弟子の手によってオーケストラ用に編曲されたと言われています。

航空行政に関する日仏国際会議歓迎会参加報告

三野 博司（会長）

国際会議の誘致に力を入れている奈良県のとりくみの一環として、4月9日（木）、春日大社貴賓館において、国土交通省航空局主催の「第1回日仏作業部会」が開催された。前日の8日（水）午前に、フランス民間航空局長の Elisabeth Dallo 氏を始めとする6名が関西空港に降り立ち、午後春日大社に正式参拝、今西清兵衛商店で試飲・酒造体験のあと、夕刻宿泊地である春日ホテルに到着した。18時半からは同ホテルで奈良県主催の歓迎会が開かれ、奈良日仏協会三野会長も招待され、Dallo 氏、国土交通省企画観光部長、奈良県観光局課長らと挨拶を交わした。三つの世界遺産を有する文化都市奈良において、今後もこのような日仏交流を推進する会議が開催されることを期待したい。

「柏木隆雄文芸講演会」（三重日仏協会・放送大学三重学習センター共催）参加報告

浅井 直子

今年で創立28年目を迎えるという三重日仏協会は、副会長の井土真杉さんを中心とする会員の方たちが、フランスと日本の友好・交流をめざした活動を長年継続しており、私たち奈良日仏協会の活動のいいお手本になっています。松阪市出身のフランス文学者で大手前大学学長の柏木隆雄さんの文芸講演会は、今年ですでに15回目、春の人気イベントになっています。放送大学三重学習センターとの共催で、4月12日（土）に津市の県生涯学習センターで開催されました。

「菊池寛とフランス文学ー『真珠夫人』を中心にー」と題する柏木先生の講演では、菊池寛全集の読書を通じて、その作品にはフランス文学からの影響がみられることを指摘されました。大正9（1920）年に大阪毎日新聞に連載された『真珠夫人』の物語の発端となる自動車事故の場面が、バルザックの短篇小説『ことづけ』（岩波文庫『知られざる傑作他五篇』所収、原題 Le Message, 1832）において、偶然馬車に乗り込んできた若い男二人が意気投合した途端に事故が起こり、一人が亡くなる間際、恋人に自分の死を伝えて形見の品を渡してほしいともう一人の男に頼む場面と、ほとんど同じような設定であることを、菊池寛とバルザックの両作品の引用を通じて提示されました。菊池寛がバルザック全集を英訳で読み、自らの文学創造に生かしていた可能性を示唆され、とても刺激的で興味深いお話でした。

講演会後の懇親会では、次々と出される季節の食材を生かしたこの上なく美味しいフランス料理を、選りすぐりのワインとともに味わい、アットホームな雰囲気の中、三重日仏協会の会員の皆様とのおしゃべりのうちに、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。



法人会員のお店紹介

菜宴（さいえん）

住所：奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F

Tel：0742-26-0835 不定休

営業時間：昼 11：00～15：00（14：30 LO）

夜 17：00～22：30（21：30 LO）



（メニュー紹介）

「パーニャカウダ」

：テーブル上でニンニク・オリーブオイルを混ぜたソースを温め、玉葱・ブロッコリー等、新鮮な野菜を浸して食べます。美味しい野菜がたっぷり食べられます。

ビストロ ルノール

住所：生駒市松美台 33-2 ランドヒルパートIV

Tel：0743-75-9555 定休日水曜日

営業時間：ランチ 11：00～15：00（14：00 LO）

ディナー 18：00～21：00（20：00 LO）



（メニュー紹介）

「木苺の香りのピネガーでしめた鯖と夏野菜のテリーヌ」

：コース料理のオードブルの一例。テリーヌの中のしめ鯖はとても風味豊か。付け合わせには、鰻の湯引きも添えられ、夏らしさが感じられます。

Lettre de Pierre Silvestri depuis Paris

(ピエール・シルヴェストリのパリ便り)

昨年は一度、そして 2015 年の今年には何度も、パリ西部郊外近くにあるデファンス地区を訪れました。床面積ではヨーロッパ随一のビジネス・センターです。新しいビデオ作品を創るため、そしてこの銀行部門で働いている外国人たちに、フランス語の授業をするためです。

デファンス地区は、パリの歴史的な場所を結ぶ横軸の延長線上に位置しています。ルーブルを出発点として、シャンゼリゼ・凱旋門・ヌイイ橋、そして新凱旋門に至るまで、連続的につながっています。主に 1960 年代に建設され、近代建築から成る高層の建物全体に、オフィスや住宅が入っています。ここに世界中からますます多くの観光客が訪れるようになっていくという事実に、私は惹きつけられています。この現象は、新凱旋門や CNIT [クニット] (国立工業・技術センター) を巡るツアーが、建築的な観点から注目されている事実を示すものです。記念碑的な大きさをした、60 余ものフレスコ画や彫刻も加える必要があるでしょう。

5 月のはじめ **Automne Monotone** というタイトルの短篇作品を私は完成させたのですが、その映像の撮影は白黒でこのデファンス地区で行われました。SF に近い様相を与えようとして大いに加工を施しました。Love in Cage というフランスのエレクトロニック・ロックのグループの歌の演出も関わっています。いつかこの作品を、みなさんに発見してもらえることを願っています。



デファンス地区に建つ
新凱旋門 (La Grande Arche)



ピエールさんの作品 **Automne Monotone** の映像より

フランス語で読む日本古典：『平家物語』事始め

Du monastère de Gion le son de la cloche, de l'impermanence de toutes choses est la résonance. Des arbres *shara* la couleur des fleurs démontre que tout ce qui prospère nécessairement déchoit. L'orgueilleux certes ne dure, tout juste pareil au songe d'une nuit de printemps. L'homme valeureux de même finit par s'écrouler ni plus ni moins que poussière du vent. Au loin, les étranges empires visitez Choko de Qin, Omo de Han, et Rokusan de Tang, tous ceux-là refusèrent de se soumettre aux décrets de leur ancien seigneur, de leur souverain d'antan, et parvenus au sommet du bonheur, méprisèrent les avertissements ne comprirent que le Monde sous le Ciel serait troublé, ignorèrent les souffrances du peuple tant et si bien qu'avant qu'il fût longtemps, ces hommes furent détruits. Plus proche, considérez notre Empire, Masakado, Sumitomo, etc., tous avaient le coeur orgueilleux et de la valeur, chacun certes à sa manière, mais plus près de nous encore, ci-devant Grand Ministre Taira-no-Ason Kiyomori, sa manière d'être telle que la tradition nous la décrit, ni l'esprit ni la parole ne saurait l'exprimer.

(traduit par René Sieffert)

(原文) 祇園精舎の鐘の声諸行無常の響あり。娑羅双樹の花の色盛者必衰の理を顕す。奢れる人も久しからずただ春の夜の夢の如し。猛き者も遂には滅びぬ偏に風の前の塵に同じ。遠く異朝を訪へば秦の趙高・漢の王莽・唐の禄山これらは皆旧主先皇の政にも従はず楽しみを極め諫めをも思ひ入れず天下の乱れん事を悟らずして民間の憂ふる所を知らざりしかば久しからずして亡じにし者共なり。近く本朝を窺ふに将門、純友など、これらは猛き心も奢れる事も皆とりどりにこそありしか。間近くは前太政大臣平朝臣清盛公と申しし人の有様伝へ承るこそ心も詞も及ばれぬ。(誌面の都合で一部省略しています)



(解説) 源氏物語に代表される華やかな王朝文化の時代から約 200 年経過して時代は武家の世の中へと変わりつつあった平安末期のことです。朝焼けのバラ色の空に少し憂いを含んだ薄紫色の横雲がたなびく動乱の時代の幕明けに日本を代表する中世初の「叙事文学」が成立しました。これが平家物語です。それまでの女流文学とは変わって事件を精細に描写し、視点も多角的でそのカメラワークの手法は現代のメディアにも似た機動性で読者を魅了してやまないのです。その冒頭は仏教的無常観に彩られた有名なフレーズで、全巻を通じて随所に仏教の経文などの精髓がちりばめられています。(中浦東洋司)

インドの祇園精舎跡 (現地名 Saheth) 本遺跡の発掘は関西大学の故網干教授が主になり実施された。

特別講座「能『通盛』をフランス語で読む」開講のご案内

- ◇日時：8月20日（木）15:00～17:00 ◇受講料：会員 1200 円、一般 1500 円（ケーキセット付き）
 ◇会場：「ミジンコブコ」（奈良市東笹針町 41 tel. 0742-24-8231）※近鉄奈良から青山住宅行きバス 5 分「今在家」下車
 徒歩 3 分、行き方がわからない人は 14:30 に近鉄奈良駅 3 番出口に集合してください。
 ◇講師：山本邦彦先生（奈良女子大学名誉教授）
 ◇申込＆問い合わせ：小寺順子 juju-b@m4.kcn.ne.jp tel. 080-1481-6167 ◇定員 9 名
 ◇内容：能「通盛」をルネ・シフェール訳のフランス語で読みます。受講申込者には事前にフランス語・日本語のテキストを送付します（代金は受講料に含まれる）。講座の中で能公演「通盛」の鑑賞案内も致します。

第 37 回奈良日仏協会シネクラブ例会 (4/26) 報告

第 37 回例会ではトリュフォー作品の中でも最もよく知られた作品『大人は判ってくれない』（1957）を取りあげた。58 年前に作られた映画であるにもかかわらず、現代なおインパクトがあり、参加者からは興味深い感想が寄せられた。

□この作品の原題は「*Les Quatre cents coups*」、直訳すると「400 発の殴打」、フランス語の慣用表現で「子供の無分別な行動・放縦な生活」という意味になる。邦題「大人は判ってくれない」はうまい題名のように、これが映画の本質を誤解させている。この作品は、大人に対する子供の反抗ではなく、大人には判らない子供の自由な行動が丹念に描かれており、むしろ「大人には判らない」という題名の方がふさわしい。13 歳の少年には自分だけの苦しみ・悲しみがある。少年は鑑別所に送られ、そこから逃げ出し、最後に海辺にたどりつく。その最後のシーンに大きな解放感があり、観客にも解放感がもたらされる。

□少年が鑑別所を脱走して走り続けているうちに、周囲の風景がだんだん変わっていくところをトリュフォーは見せたかった。森をぬけ、セーヌの川べりをぬけ、河口近くを通り、最後はノルマンディーの海岸にたどりつき、観客の方に向かって振り返る。

□古い映画をみることの楽しみの一つは、現代のアクチュアルな問題として考えること。子供は大人と違って半人前、極端に言えば人間扱いしないフランス式しつけが、ありありと描かれていて面白かった。日本の自分達の世代は友達のような親という育て方で子供に甘かった。しかしいずれの場合にも非行や不良は生れる。大人には大人の世界、子供には子供の世界があり、両者間に断絶があるが、映画では親子で一緒に映画を楽しむ場面もある。「子供と大人の関係性」が問題。身につまされる。

□子供には言葉でうまく言えないことがある。子供の鬱積した感覚がこの映画ではよく表現されている。教育関係者にみてほしい。俳優のジャン＝ピエール・レオーは言葉にできない感情を、表情で豊かに演じていた。



□名画には映画を見た後にも、じわじわといろいろなことを考えさせる良さがある。子供の頃に不良少年だったとしても、成人して立派な大人になる人もいる。トリュフォー自身もその一人。

□遊園地の高速回転する「ローター」の場面が印象に残った。子供には子供の世界があることが、伝わってくる。美術にも子供独自の表現がある。トリュフォーは子供の表情を上手に捉える。

第 38 回 奈良日仏協会シネクラブ例会 (6/28) 案内

- ★日時：6月28日（日）13:30～17:00 ★会場：奈良市西部公民館 5 階第 4 講座室
 ★プログラム：フランソワ・トリュフォー監督『緑色の部屋』（*La Chambre verte*, 1978 年, 94 分）
 ★参加費：会員無料、一般 300 円 ★問い合わせ：tel. 0743-74-0371 Nasai206@gmail.com
 ★飲み会：例会終了後「味楽座」にて ※例会・飲み会とも予約不要



★第 1 次大戦以来、ジュリアン・ダヴェンヌは亡き妻や友人たちの死者崇拝に生きている。勤め先の新聞社では死亡告知を担当、家政婦と聾啞の子どもジョルジュと暮らし彼には話すことを教えている。家には妻の思い出に捧げられた部屋—緑色の部屋—を設置し、妻に属するすべてのものをそこに集めている。ある競売で、死者への崇敬の気持ちを分かちあってくれるセシリアという女性に出会う。★『緑色の部屋』でトリュフォーは、きわめて重く厳粛な映画を作った。『野生の少年』（1970）と同様に、抑制された調子や少し単調な彼の演技は、物語の情動的な強さを極限まで拡大させる。「人は人生において生者よりも死者と親しむ時期がある」と彼はいう。それは当前のことかもしれないが、『緑色の部屋』のシナリオをよく言い表しているように思われる。ヘンリー・ジェイムズの二つの短篇小説と、亡くなった彼の婚約者の思い出への忠誠に関する自伝をおり混ざっている。★この作品は、亡き人を愛し敬い忘却を拒む男と女の関係の進展を描く。社会的・宗教的慣習が思わせていることとは反対に、生者と同じくらい死者に対して、攻撃的で情緒的な関係を持続させることがある。『緑色の部屋』はこのように、死者崇拝の問題を、解答は出さぬまま提起している。ダヴェンヌの人物像は、奇妙な不安を起こさせる要素（悪夢、聾啞の少年、写真の提示）によって、いっそう強調された狂気に達している。フランソワ・トリュフォーは、彼に成功をもたらした軽い調子から脱している。この映画は彼のもっとも優れた作品の一つであるが、残念ながら商業的には失敗となってしまった。トリュフォー・ファンには必見の作品。

（ピエール・シルヴェストリ）

Recette du «Curry d'aubergine et de viande hachée»

今回は、生駒市の公民館等で料理教室「玄米を楽しむ会」の講師をされている会員の中田由美子さんが、「なすとひき肉のカレー」の作り方を紹介してくれました。蒸し暑い夏にも食がすすみそうです。(編集部)

【材料】(2人分) ひき肉(豚又は鶏) 150g、なす 2 本、玉葱 1/2 個、人参 1/2 個、にんにく 1 かけ、生姜(すりおろし) 適量、バター 10g、カレー粉 小さじ 1、ケチャップ 小さじ 2、料理酒 小さじ 2、しょうゆ 小さじ 1、コンソメ顆粒 小さじ 1

【Ingrédients】(pour deux personnes) 150g. de viande hachée (porc ou poulet), 2 aubergines, 1/2 oignon, 1/2 carotte, une gousse d'ail, gingembre frais râpé (selon votre goût), 10g. de beurre, une cuillère à café de poudre de curry, deux cuillères à café de ketchup, deux cuillères à café de saké, une cuillère à café de sauce soja, une cuillère à café de poudre de bouillon

①にんにく・玉葱・人参はみじん切り、なすは薄く切る。

Hacher en mirepoix l'ail, l'oignon et la carotte, couper les aubergines en fines tranches.

②フライパンにバターを熱し、弱火でにんにくと生姜を炒める。

Dans une poêle, faire revenir à feu doux l'ail et le gingembre dans le beurre.

③玉葱と人参を加えて透きとおるまで中火で炒め、ひき肉・なすの順に加えて炒める。

Ajouter l'oignon et la carotte, faire les suer à feu moyen et y ajouter la viande hachée et puis l'aubergine.

④料理酒、しょうゆ、コンソメ顆粒を合わせて加え味をなじませ、カレー粉を振りかけ、ケチャップも加えて混ぜる。

Ajouter le saké, la sauce soja et la poudre de bouillon, bien mélanger, saupoudrer de poudre de curry, ajouter le ketchup et bien mélanger.

⑤暖かいごはんに④をのせ、好みの漬物を添えていただく。(ごはんは玄米ごはん・黒米ごはん、麦ごはん等にしてもよい)

Servir chaud sur du riz, accompagner de tsukemono selon votre goût. (Choisir du riz complet, du riz noir, ou un mélange de riz et de blé.)



Nos amis francophones à Nara (1) 坂本ミリアムさん

奈良に縁のあるフランコフォンを紹介するコラムです。第 1 回目は奈良市高畑町の坂本ミリアムさんにお話を伺いました。(ミリアムさん) 奈良でカフェをオープンして 32 年になるが、昔のままを貫いている。自分のスタイルはあるが、あえて「スタイルを作らない」を通して。看板メニューのカレーは 1 年間の試行錯誤でお客にも意見を聞いてこだわりを持って作った。カレー粉をいって黒いカレーにしたかったのと、入れた野菜の形を残さないこと。そのため、沢山の野菜が入っているがミキサーにかけている。スープに近い物にしたかった。味は自分が好きな味を見つけるまで材料を変えて提供。大事なことは自分の子供にあげられるかどうか。健康に良いものを使う。自分自身が食べることが大好き。自分が好きかどうか大切。美味しいものを食べたいから、美味しいものを自分で作る。それが自分のお店にしか無いものでありたい。ここなら美味しくて安心と言ってもらえるのが嬉しい。疲れているときにお客さんからこう言われると元気になる。(感想) ずっと変わらずに、シンプルに、自分の美味しいと思うものをこだわりのない「こだわり」で提供してくれる。小麦粉を使わずに、アーモンドプードルだけで焼き上げたガトーショコラをもう一度食べたい、手作りクッキーもとても美味しくてお値段も求めやすく、また食べたい、買いに行きたい、と思う。昔のまま、変わらない店があってもいいと仰るミリアムさんに、私も賛同したい。お話を聞いている時、お店に小さなお子さんが入ってきてクッキーを二つ買うと、ドアからお母さんがニコリと覗いていたのも印象的だった。地域に溶け込んでいるのがうかがえた。(佐々木幸代)

会員紹介

フランスと私

橋本 宏子 (はしもと ひろこ)

私とフランスとの出会いは、高校 3 年生の時でした。春休み、短期留学制度でアメリカのシアトルに 3 カ月程ホームステイした翌年、AFS (アメリカ政府給費) 交換留学生としてアメリカ以外の国に留学したくて、MNP (マルチ・ナショナル・プログラム) の第一期生としてフランスに一年間留学し、フランスの高校に通いました。

それから 10 年後、エールフランスのパリ本部の客室乗務員として渡仏。訓練生の期間を終えた後、日本航空のパリ支店に勤務し、そのまま 10 年間パリでお仕事させていただきました。思えば、10 代から今に至るまで、ずっとフランスとの関係は続いており、日本での生活で少し落ち込んだ時は、フランスの友人にメールを送ったり、また会いに行ったりして、元気をもらっています。

子供たちも大きくなり、それぞれの道を歩み出して、これからは、今まで自分が培ってきた経験を基にして、何かできればと思っています。奈良に来て 6 年、奈良日仏協会の会員の皆様と知り合いになって、楽しい時間を一緒に過ごせればと思っています。どうかよろしくお願い致します。

フィレンツェからの便り

濱 恵介 (はま けいすけ)

4月中旬からイタリアのトスカーナ州都フィレンツェに滞在しています。週日は昼過ぎまで語学学校でイタリア語の授業を受け、午後は美術館・博物館や教会を訪れ美術作品の鑑賞に充てることが多いです。また週末には他の都市や田舎町へでかけ歴史的な建築・美術や田園情緒を楽しむという優雅な暮らしです。フィレンツェは、14世紀から16世紀にかけて経済的に繁栄し軍事的にも強い都市国家に、次いでトスカーナ公国の首都となり、支配者メディチ家の文芸擁護により「ルネサンス文化」が花開きました。その膨大な歴史的遺産は世界各地から観光客を集める力となり、文化財や都市の美観で経済が回っているのです。

ご承知のとおり、イタリア語はフランス語ときわめて近い兄弟言語です。フランス語の知識のお陰で私はイタリア語にすぐ馴染め、滞在1か月で日常会話にはあまり不自由を感じなくなりました。しかし共通点が多いとは言え、上手に話し書くためには、沢山の文例に接し多様な動詞活用をこつこつと覚え実践するしかありません。名詞の性 *genre* の区別はフランス語と大体同じですが、逆になる例もあり要注意。文字と発音の関係は規則的かつ「ローマ字」読み風で、日本人にとっては *rr* の巻き舌や *gli* などを除き難しくありません。イタリア語には明瞭な音の響きがあり、歌に適した言語のように思われます。



通学路の一風景、正面は Santa Maria del Fiore 大聖堂

住まいは学校が斡旋してくれたアパートメントで都心に近いわりに静かです。大家さんは緑豊かな庭を介して同じ1階に住んでいます。最初の6週間は朝食と夕食の提供をお願いし一緒に食事をしますが、彼女は話し好きのうえフランス語もある程度できるのでイタリア語会話の練習に好都合です。滞在後半は授業のない期間が3週間あり、数回に分けて国内旅行をする予定です。7月上旬には帰国します。(5/15 記)

ノストラダムスに魅せられて

上野 公嗣 (うの まさつぐ)

私が初めてフランスに関心を持ったのは、ちょうど受験勉強真っ盛りの夏休みでした。図書館での自習の合間に読んだ『ノストラダムスの大予言』(五島勉、1973年)にどんどん引き込まれ、それまで頑張ってきた大学受験を完全に諦めてしまう事態となりました。そのままだったらと予言・予知・心理学に関する本を読み漁っていましたが、その年の11月に祖母が他界したのをきっかけに、一念発起し大学受験を再スタート。大阪市立大学の理学部物理学科に通うことになりました。『諸世紀』を原文で読むことを目的に、大学では第二外国語でフランス語を選択。しかし目的は果たせず、気づけば時の流れるがままに社会人になっていました。

44歳の時、万葉ホールの図書館で一冊の本『秘伝ノストラダムス・コード』(竹本忠雄、2011年)に出会いました。的確かつ詳細にノストラダムスの予言を解説していると思われました。ルーマニア人の翻訳をベースにしているとのことですが、多数の近代の出来事にも触れており、予言の精度の高さに改めて関心させられました。特に繰り返し明示している、予言全体が世紀末にフランスに現れる「グランモナルク」と呼ばれる救世主に宛てて書かれているというところに興味を引かれ、その人に直接会ってお話を伺いたいとの希望をもち、フランス語の勉強を独学で再開しました。

その後いろいろと考えたり教えてもらい奈良日仏協会にたどり着きました。ジャメ先生の語学学校にもお世話になり、この4月には三野会長からフランス滞在のアドバイスをいただきました。フランスに興味のある方に動機をお伺いすると、芸術などの関係や観光が多数で、ノストラダムスに関心のある人はまだ見つかりません。将来ノストラダムスのことをもっと知るため、フランス滞在を希望しています。安全かつ経済的に長期滞在できる方法について、会員有志の皆様のご助言をいただけると、ありがたいです。(連絡先: masatsugu.ueno@gr.tsubakimoto.co.jp)



ノストラダムスの肖像画

『諸世紀』: ルネサンス期フランスの医師・占星術師・詩人のミシェル・ノストラダムス (1503 - 1566) の主著、『ミシェル・ノストラダムス師の予言集』(Les Prophéties de M. Michel Nostradamus) の邦題のひとつ。作家の五島勉の著書『ノストラダムスの大予言』によって広まった名称。(編集部注)

第126回 フランス・アラカルト「金谷幸三のエスカルゴなギター」のご案内

- ❖日時：7月25日(土) 15:00~17:00 ❖会費：会員1000円、一般1500円(ワンドリンク付き)
 ❖会場：喫茶 Pal (生駒市北新町11-8 TEL: 0743-74-4255 近鉄生駒駅近く)
 ❖問い合わせと申込先：Nasai206@gmail.com tel & fax : 0743-74-0371
 ❖ゲスト：金谷幸三さん(1966年神戸生れ、1984年渡仏、パリ国立高等音楽院でA.ラゴヤ、C.アルム、パリ国際音楽大学にてM.サダノフスキーに師事。1989年パリ、サルコルトーで現代音楽プログラムによるデビューリサイタル。第2回シャントレル国際ギターコンクール優勝。第43回東京国際ギターコンクール3位(邦人最高位)。現在は、演奏活動を行う一方、「エスカルゴなギター教室」主催。
 ❖金谷さんからのメッセージ：まだまだクラシックギターはスペイン・南米のイメージが強い楽器ですが、今回はフランス近代・作曲家によるピアノ作品の他、現在パリ高等音楽院のギター科教授が編曲した往年のシャンソンなど硬軟織り交ぜたプログラムを演奏いたします。ギターの響きと香りがどうフランス音楽と結びつくか、お楽しみ下さい。

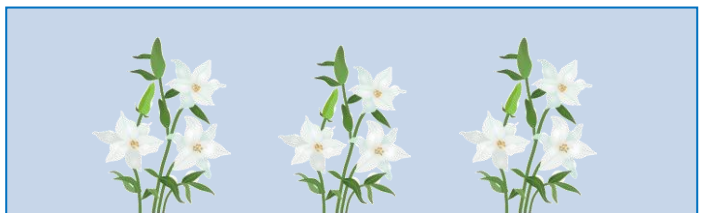
**《2015年度第3回理事会報告》**

……事務局

日時：2015年5月21日(木) 15:00~17:15 場所：放送大学奈良学習センター Z308 教室 出席者：三野、ジャメ、野島、浅井、井田、高島、仲井、中浦、中辻、藤村、三木
 議題1. 今年度会費納入状況：暫定会員数99、未納会員21、年度末まで会員数は確定できない。
 議題2. 3/19の理事会後の活動報告：第124回フランスアラカルト(3/31)、第37回シネクラブ例会(4/25)、第125回フランスアラカルト(5/9)
 議題3. 今後の活動：第38回シネクラブ例会(6/28)、第126回フランスアラカルト(7/25)、「フランス人留学生との交流会」(7~8月)、ガイドクラブ「勉強会」(9月)「浄瑠璃寺散策」(10月)、秋の教養講座(11/23) - 日仏協会と放送大学奈良学習センター共催、野島正興氏講演「バロン薩摩の夢を追うー奈良日仏協会誕生前夜の物語」(仮題)、講演会後懇親会(会場未定)
 議題4. 講座：「能をフランス語で読む」特別講座開講(8/20)
 議題5. Mon Nara : 以前のクロネコメール便とほぼ同様のサービス内容で配送を引き受けてくれる会社がみつかり、元どおりチラシ同封が可能に。配送日数は3~4日かかる。
 議題6. フランス・アラカルト他の開催企画案審議：9月7日(月)「米津さんのフランス家庭料理」承認。会員の個人活動はMon Naraの「会員通信」に案内掲載。今年度アラカルト企画申込制の問題点、企画責任者の役割等確認。
 議題7. EU協会と当協会との関係：両団体の性格・活動のあり方等の違いについて確認。今後も審議継続。
 次回理事会：7月16日(木) 15:00~17:00

会員通信

- ★6月21日(日)13:30 開演、金谷幸三クラシックギターコンサート「古典ギターを楽しむ会」、ギャラリーGM-1(奈良市学園南1丁目)にて。連絡先：090-5967-1924 (金谷)
 ★音楽の祭典、パリ祭...夏はシャンソンのコンサートが目白押しです。フランス語で歌うシャンソン(6/29)、ヌーヴォーパリ祭(7/10)、サンケイパリ祭(7/16)に出演します。お出向下さい。連絡先：06-6922-6502 (梨里香 [中辻])
 ★7月22日(水)~26日(日)「赤木睦代展」、京都文化博物館にて個展を開催します。25日(土)午後2時からアーティスト・トークもあります。連絡先：080-1443-7842 (赤木)
 ★8月6日(木)15:00~17:00「濱さんのイタリア話をきく会」、紅茶カフェ・マルディマルディ(奈良市登美ヶ丘3丁目)にて。連絡先：070-5504-1881 (仲井)
 ★8月9日(日)13:00 開演、コンサート「昼下がりのボサノヴァ」、人間の尊厳・平和の尊さを訴えかける音楽の底力。日本人には珍しい音楽家をご紹介します。ホワイエ・ヴェール(宇陀市榛原萩原)にて。連絡先：090-8751-6408 (藤村)

**編集後記**

☆初夏です。万葉歌人は「夏の野の茂みに咲ける姫百合の知らぬ恋は苦しきものぞ」(巻8-1500、坂上郎女)と詠み、人に知られない恋の苦しみを百合の花に託しました。☆漱石の『それから』では百合は主人公代助と三千代の愛の象徴として描かれています。☆バルザックの『谷間の百合』(Le lys dans la vallée, 1836)ではフェリックス青年は愛するモルソフ夫人を、「Elle était, comme vous le savez déjà, sans rien savoir encore, "le lys de cette vallée" où elle croissait pour le ciel, en la remplissant du parfum de ses vertus.」と喩えます。☆百合の花のたたえる清々しさ・大らかさ・凛々しさには、恋心を抱けども容易に通じ合えない気持のもどかしさを受けとめて、心の苦しみを癒してくれる力があるのでしょうか。(N.Asai)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
 ◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。締切日：次号は**7月20日**が原稿締切日です。

Mon Naramai-juin 2015 **5-6月**合併号 numéro269

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : afjn_info@kcn.jp FAX 0742-62-1741

〒630-8691 奈良中央郵便局 郵便私書箱第30号[郵便物のみ] ©発行責任者：三野博司